



NPO 法人

mRNA ターゲット

創薬研究機構

## 2026 年度第 3 回講演会 「RNA スプライシング異常に起因する RNA 病治療への挑戦」

演者 片岡 直行 博士

東京大学

高等真核生物では、ゲノムにコードされた遺伝情報がタンパク質として発現するためには、mRNA 前駆体からイントロンを除き、エクソンを連結する反応、スプライシングが必須である。スプライシングは精密で高度に制御された過程であるが、そこに破綻を生じた場合、ヒトでは疾患として現れる場合が多い。そのような疾患を総称して「RNA 病」と呼んでいる。本講演では、講演者らがこれまでに取り上げてきた「RNA 病」について、その異常スプライシングの分子メカニズムの解明と、治療法の探索についての試みを紹介し、議論したい。

日時: 2026年12月14日(月) 14:30~15:30

場所: 千葉工業大学 6号館 647教室

参加資格: 正会員、学生会員、賛助会員 ※賛助会員(団体) 1口5名まで

参加登録: 必要、参加費: 無料 (事前に年会費をお支払いください)

入会の情報はホームページで <http://www.mrna-target.org/>  
参加登録およびお問い合わせ [npo\\_support@mrna-target.org](mailto:npo_support@mrna-target.org)



## 2026 年度第 3 回講演会 「RNA スプライシング制御機構の理解と応用」

演者 網代 将彦 博士  
国立がん研究センター

RNA スプライシング制御は真核生物の遺伝子発現において基本的な制御メカニズムであり、その破綻は多様な疾患原因となり得る。本セミナーでは RNA スプライシング制御への介入という観点から、遺伝性疾患あるいはがんを標的とした低分子化合物によるスプライシング制御の解析例を紹介する<sup>1,2</sup>。

また、RNA スプライシング制御を担う RNA 結合タンパク質制御配列の解析に向けて構築した SCALE-CLIP についても合わせて紹介する<sup>3</sup>。同手法はこれまで技術的に難しかった多くの RNA 結合タンパク質および RNA 配列群の解析に適用可能であり、RNA スプライシング制御の応用に向けた基礎情報として有用と考えられる。

- 1) Chemical induction of splice-neoantigens attenuates tumor growth in a preclinical model of colorectal cancer, Sci. Transl. Med. 2022, 14(673):eabn6056.
- 2) Invention of oral medication for cardiac Fabry disease caused by RNA mis-splicing. Sci. Adv. 2025, 11(5):eadt9695.
- 3) A positional and combinational regulatory code for alternative splicing, bioRxiv 2026.06.10.729476

日時:2026年12月14日(月) 15:30~16:30

場所:千葉工業大学 6号館 647教室

参加資格: 正会員、学生会員、賛助会員 ※賛助会員(団体) 1口5名まで

参加登録: 必要、参加費:無料 (事前に年会費をお支払いください)

入会の情報はホームページで <http://www.mrna-target.org/>  
参加登録およびお問い合わせ [npo\\_support@mrna-target.org](mailto:npo_support@mrna-target.org)